

かわい
可愛いポール

ほうじょうたみお
北條民雄

ミコちゃんのこいぬ小犬は、ほんとうにかわい可愛いものです。丸々と太ったまるまる ふと
からだ体には、綿のようにめん やわら柔かい毛がふかふかと生えています。

なまえ名前はポールと言います。これはミコちゃんが、みつか かんが三日も考えてつ
けたのでした。ポールと言うのは、フランスのうつく うた つく美しいお歌を作る
せんせい なまえ先生のお名前です。

ミコちゃんだいすはポールが大好きです。ポールもミコちゃんいの言うこと
はなん よ き何でも良く聞きます。又ミコちゃんまた い ところの行く所へは、どんなところ所
もけらい つ家来のように従って行きます。

「ポール！ ポール。」

と呼ぶと、どこいちもくさん か きにいてもポールは一目散に駆けて来て、ミコちゃん
のめいれい ま命令を待っています。

ごきんじょ たち み御近所のおばさん達も、ポールを見ると

「かわい かわい可愛いポール。可愛いポール。」

と呼んでは、ポールいっとうすの一等好きなカルケットをごちそうしてくれま
す。そしてミコちゃんみを見ると

「い りこうなんと言うお利口なミコちゃんでしょう。」と言って、口々にほ
めてくれるのです。それはポールがまだミコちゃんうち このお家へ来ない
まえ たす前ポールを助けてやったからです。

ミコちゃんがポールを助けたのは、雪でも降りそうな寒い日の夕方でした。お父様のお手紙を持ってミコちゃんはポストまで行かなければなりません。北風がヒューヒュー吹いて手でも足でも凍ってしまいそうです。それでも元気よく駆けて行きました。

すると赤いポストの横で、大勢の人が、何か口々にわいわいと言っています。それに混じって大変悲しそうな犬の声も聞えて来るのでした。

どうしたのかしら？ と思って側へ近寄って見ると、それは野犬狩をしているのでした。

この寒いのに、一人は頭に穴のあいた麦藁帽子をかむって、太い棒を持っています。もう一人はベトベトとよごれたオーバアを着て、恐ろしい眼つきであたりをにらんでいます。手には強そうな綱を持っています。

すぐ横には荷車が一台止めてあります。荷車の上には、大きな箱がのせてあって、犬をつかまえると、この箱の中へ押し込んでしまうのです。

恐ろしい眼つきをした男が言いました。

「まだ朝から二十匹しか捕まらんぞ。」

穴あき帽子をかむった方が答えました。

「うん。もう十匹は捕りたいなあ。」

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。